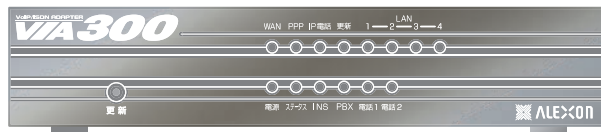


VoIP/ISDN ADAPTER

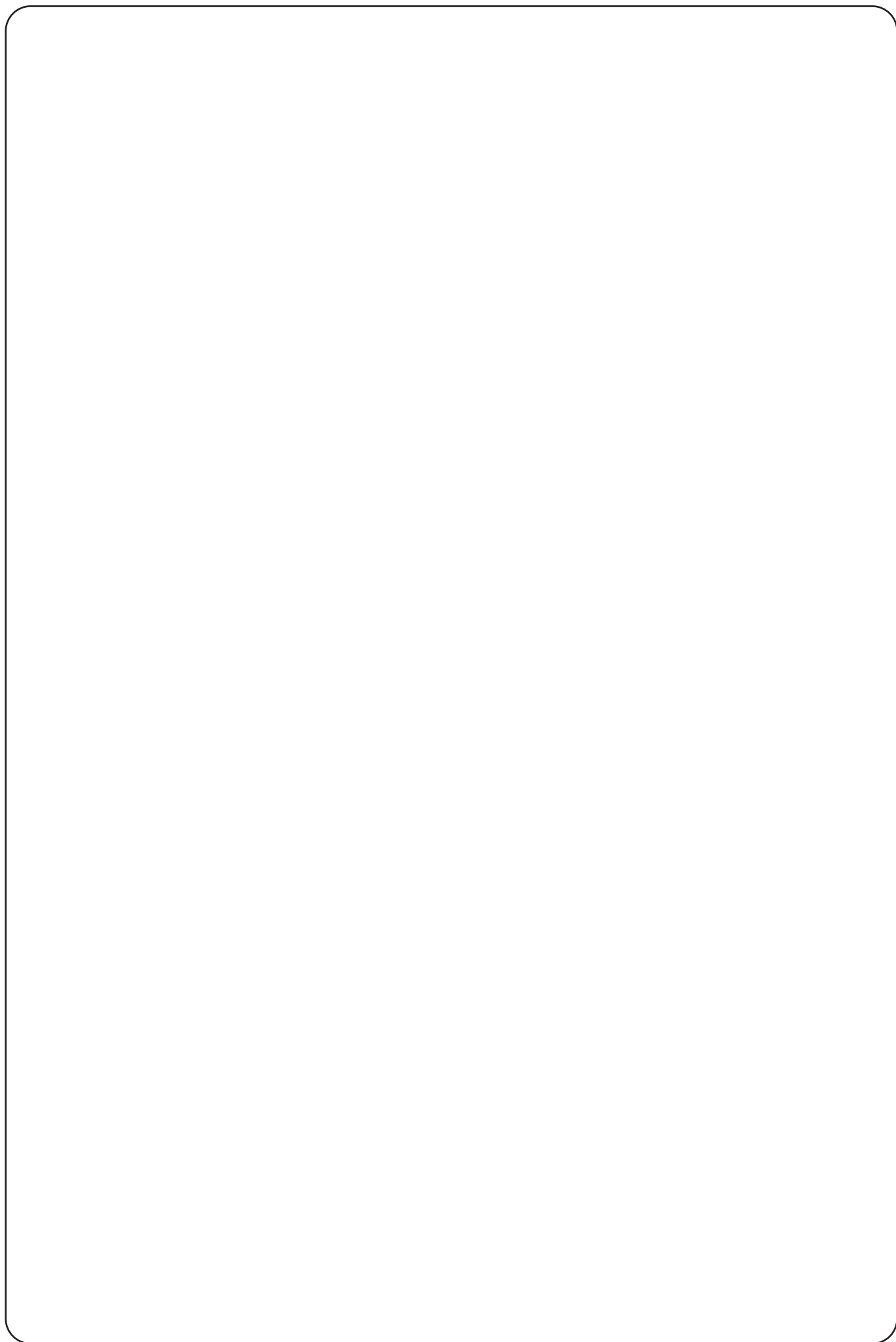
VIA300

接続事例集



2004年8月版

 ALEXON



ご利用方法別 目次

㊦ ISDN回線の代表組環境下で使用するには？ ②, ③, ④

- ② ISDN回線を2回線収容の内、子回線側にVIA300を設置する方法
- ③ ISDN回線を2回線収容の内、親回線側にVIA300を設置する方法
- ④ 2セッション接続にて、VIA300を2回線設置する方法

㊦ 既設ネットワークと共存するには？ ⑤

- ⑤ 既設のLAN環境に2セッション接続でVIA300を設置する方法

㊦ ISDN回線をADSL回線に変更して使用するには？ ⑥, ⑦

- ⑥ 迂回発信のため、ISDN回線を収容する場合
- ⑦ 迂回発信のため、ビジネスホン/PBXからISDN回線を収容する場合

㊦ アナログ回線のビジネスホンで使用するには？ ⑧, ⑨

- ⑧ ISDN回線を迂回として残し、共有する場合
- ⑨ ISDN回線をADSL回線に変更し、迂回を残存回線により行う場合

㊦ IP電話で転送を行うには？ ⑩, ⑪

- ⑩ ターミナルアダプタ(TA)の転送機能を利用
- ⑪ ビジネスホン/PBXのS/Tポートにターミナルアダプタ(TA)接続し転送機能を利用

㊦ S/T端子の使用方法は？ ⑥, ⑦, ⑫

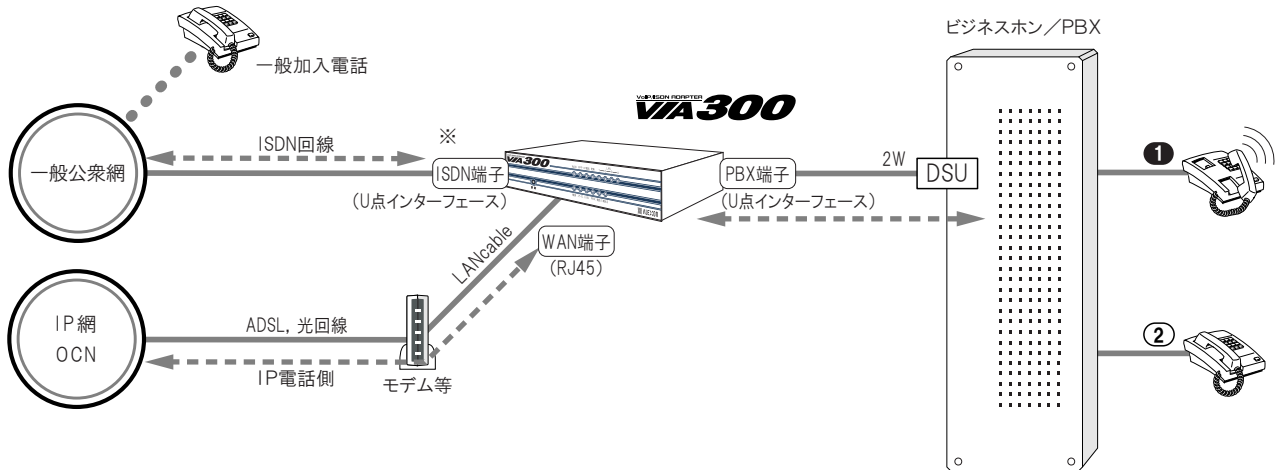
- ⑥ 迂回発信のため、ISDN回線を収容する場合
- ⑦ 迂回発信のため、ビジネスホン/PBXからISDN回線を収容する場合
- ⑫ IP通話中(2通話中)に、一般公衆網でFAXを送受信する方法

◎ 迂回発信 . . . 回線選択発信または、「OCNドットフォン オフィス」サービス対象外通話の発信

本機VIA300はNTTコミュニケーションズ(株)が提供するIP電話サービス(OCNドットフォン オフィス)に対応したアダプターです。INSネット64(以後ISDNと呼びます)対応ビジネスホン/PBX(以下PBX)からの発信をISDN回線またはIP網に自動で振り分け、かつISDN回線および、IP網の両方からの着信も可能にします。

特に、本機の回線選択テーブルに電話番号を登録しますと、登録済みの電話番号で発信する時に、ご希望されるISDN回線または、IP電話を自動的に選択します。これにより、通話品質、通話費用を発信先に応じて選ぶことができます。

基本接続図



※ VIA300のISDN端子にISDN回線を収容することにより、迂回発信(OCNドットフォン オフィス)サービス対象外通話時の発信)が可能になります。

！ご使用上の注意点

- フレックスフォン(キャッチフォン、通信中転送、三者通話、着信転送)、通話中着信通知はサポートしていません。
- ボイスワープの契約回線に本機を設置される場合、PBXに自己アドレス(発信者番号通知)の設定が必要です。ボイスワープ契約回線であっても、自己アドレス(発信者番号通知)の登録設定が必要になります。
- 本機に電源が入っていない時は、IP通話が出来ません。この場合はISDN回線(本機に接続している)を使って通話します。(通話料金はお客様が加入している電話会社からの請求となります)
- 着番号の通知条件によっては、PBX-U点に接続しているISDN機器の設定変更が必要となることがあります。
- 本機のPBX-U点経由ではデータ通信は出来ません。PBX-U点に接続する機器のS/TコネクタにG4FAXやデータ通信を行う機器を接続してる場合、本機のS/Tコネクタに接続してください。
- ISDN回線契約が現在P-P接続のお客様は本機をご利用できません。P-MP接続(常時)に契約を変更する必要があります。
- 発着信中・本機設定中や通話中に接続ケーブルが抜けますと、正常に動作しなくなることがあります。その時は、接続PBXと本機の電源を一旦オフにしてからオンにご利用ください。
- 問題なく通話するには、IP網が少なくとも上り下り共に約**360Kbps**以上の回線速度が必要です。回線速度が遅いと通話品質が落ちたり、通話できないことがあります。
- 本機にグローバルIPアドレスが利用可能であること。
PBX等にファクシミリ回線を収容している場合、発着信ともNTT加入者回線に接続する様に設定してください。
- IP電話がご利用できない電話番号は、ISDN回線を使って通話します。(通話料は、お客様が加入している電話会社からの請求となります。)IP電話ご利用は識別音にてご確認できます。

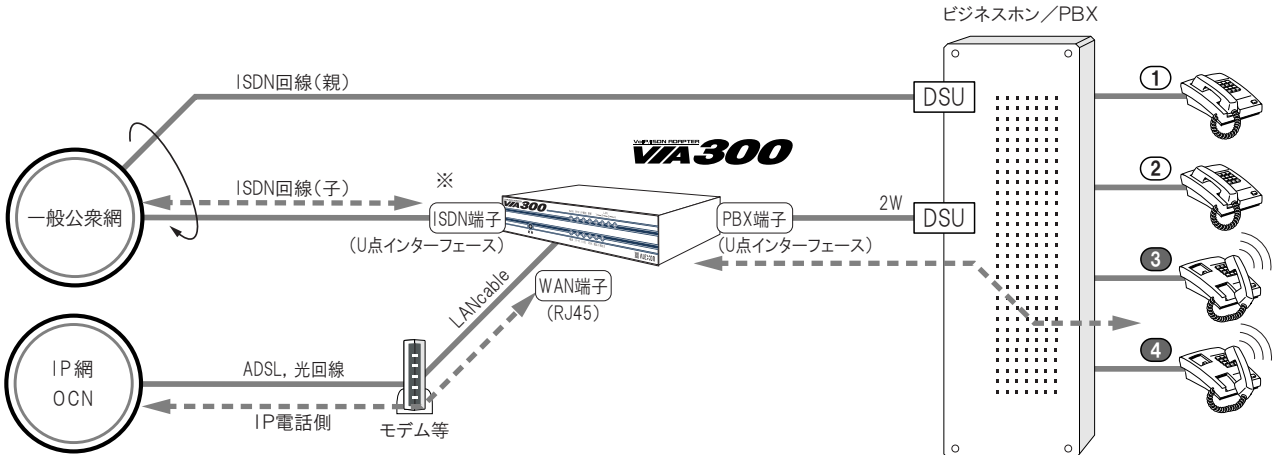
本機故障時の応急処置

- 本機の故障によりIP通話やISDN通話が出来なくなった場合、本機の電源をオフする事によりPBX-U点とISDN-U点を直結してISDN回線を使って通話が可能となります。

ISDN回線を2回線収容の内、子回線側に **VIA300** を設置する方法
ブロードバンド回線にADSLまたは、光回線を使用

接続図(例)

ISDN回線(子回線側)をISDN端子に接続し、PBX端子からビジネスホン/PBXの局線ユニットに接続します。
ブロードバンド回線(モデム等)をWAN端子に接続します。



※ VIA300のISDN端子にISDN回線(子回線)を収容することにより、迂回発信 (「OCNネットフォン オフィス」サービス対象外通話時の発信)が可能になります。

! ご使用上の注意点

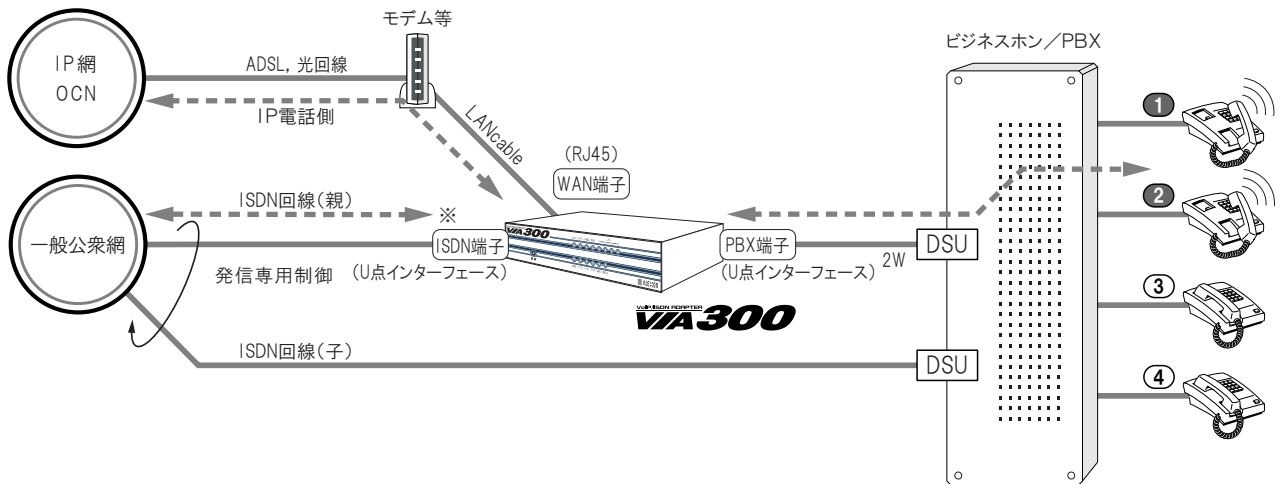
- ビジネスホン/PBX(以下PBX)に接続するにはDSUが必要です。(内蔵、外付け共に可)
- PBXの設定により、【3】、【4】番からIP網(優先発信)と一般公衆網に発信できます。(ISDN回線と共存が可能)
- 着信はIP網と一般公衆網、併せて2通話までです。2通話以上はビジーとなります。
- ISDN2回線が代表組【ラウンドロビン方式】の場合、VIA300の設定で【代表組を使用する(1*41)】に変更し、NTT(116番)にてVIA300に収容しているISDN回線に対して、【発信専用制御(P-MP回線毎)】をお申し込みし、契約してください。ただし、ISDN2回線が代表組【順次サーチ方式】の場合にはこの設定は必要ありません。(VIA300からビジーを返す為)
- 問題なく通話するには、IP網が少なくとも上り下り共に約**360Kbps**以上の回線速度が必要です。回線速度が遅いと通話品質が落ちたり、通話できないことがあります。

memo

ご注意: 上図は接続の参考例です。環境や接続状況によっては、ご使用になれない機器がございます。VIA300への接続については、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

ISDN回線を2回線収容の内、親回線側に **VIA300** を設置する方法
ブロードバンド回線にADSLまたは、光回線を使用

接続図(例) ISDN回線(親回線側)をISDN端子に接続し、PBX端子からビジネスホン/PBXの局線ユニットに接続します。
ブロードバンド回線(モデム等)をWAN端子に接続します。



※ VIA300のISDN端子にISDN回線(親回線)を収容することにより、迂回発信
(OCNネットフォン オフィス)サービス対象外通話時の発信)が可能になります。

!ご使用上の注意点

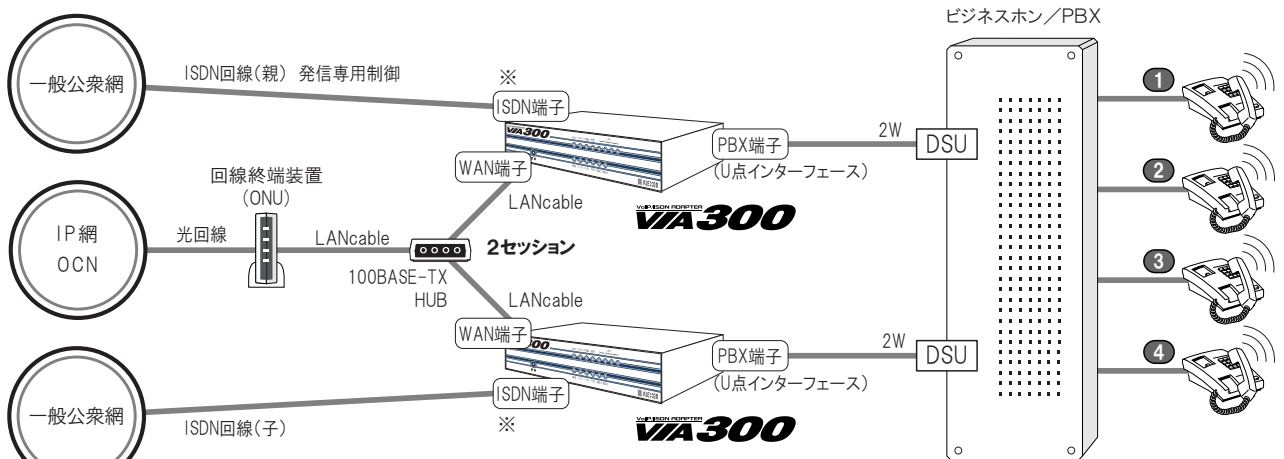
- ビジネスホン/PBX(以下PBX)に接続するにはDSUが必要です。(内蔵、外付け共に可)
- PBXの設定により、【1】、【2】番からIP網(優先発信)と一般公衆網に発信できます。(ISDN回線と共存が可能)
- 着信はIP網と一般公衆網、併せて2通話までです。2通話以上はビジーとなります。
- ISDN2回線代表を組んでいる場合、親回線側が2通話中に一般公衆網からの着信があった場合には、子回線側に着信が流れます。その為にはVIA300の設定で【代表組を使用する/(1*41)】に変更し、NTT(116番)にてVIA300に収容しているISDN回線に対して、【発信専用制御(P-MP回線毎)】をご契約してください。(工事費・月々の費用共無料です)
- 問題なく通話するには、IP網が少なくとも上り下り共に約**360Kbps**以上の回線速度が必要です。回線速度が遅いと通話品質が落ちたり、通話できないことがあります。

memo

ご注意:上図は接続の参考例です。環境や接続状況によっては、ご使用になれない機器がございます。VIA300への接続については、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

ISDN回線を2回線収容のビジネスホン/PBXに **VIA300** を2台設置する方法
ブロードバンド回線に光回線を使用

接続図(例) 2セッション接続により、VIA300を2台設置可能です。ただし、OCNドットフォン オフィスを2契約する必要があります。



※ VIA300のISDN端子にISDN回線(各回線)を収容することにより、迂回発信 (OCNドットフォン オフィス)サービス対象外通話時の発信)が可能になります。

！ご使用上の注意点

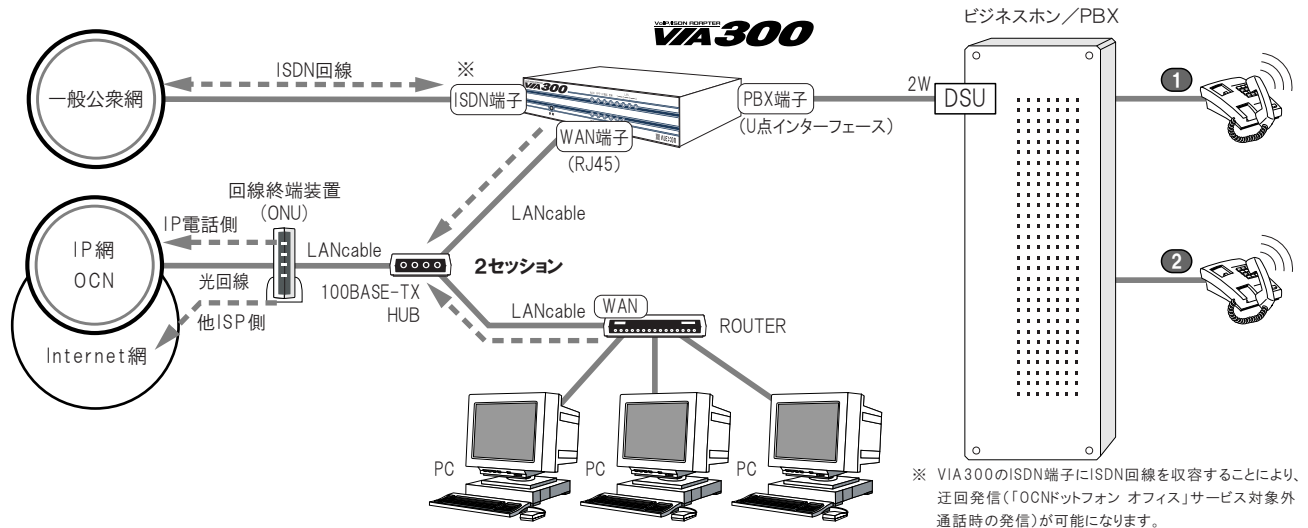
- ビジネスホン/PBX(以下PBX)に接続するにはDSUが必要です。(内蔵、外付け共に可)
- PBXの設定により、【1】～【4】番からIP網(優先発信)と一般公衆網に発信できます。(ISDN回線と共存が可能)
- 着信はIP網と一般公衆網、併せて4通話までです。4通話以上はビジーとなります。(1台あたり、2通話までです)
- ISDN2回線代表を組んでいる場合、親回線側が2通話中に一般公衆網からの着信があった場合には、子回線側に着信が流れます。その為には、親回線側のVIA300で【代表組を使用する/(1*41)】を設定し、NTT(116番)にてVIA300に収容しているISDN回線(親回線)に対して、【発信専用制御(P-MP回線毎)】をご契約してください。(工事費・月々の費用共無料です)
- 問題なく通話するには、IP網が少なくとも上り下り共に約**720Kbps**以上の回線速度が必要です。回線速度が遅いと通話品質が落ちたり、通話できないことがあります。
- PPPoEセッション再取得の際、端末装置の再接続、及びVIA300のSIP再接続の為、20～30分程度IP通話できない場合があります。
- NTT西日本では「フレッツ・プラス」をご契約することで、セッション数の追加が可能です。詳しくはNTTまでお問い合わせください。

memo

ご注意: 上図は接続の参考例です。環境や接続状況によっては、ご使用になれない機器がございます。VIA300への接続については、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

既設のLAN環境に **VIA300** を設置する方法
ブロードバンド回線に光回線を使用

接続図(例) 回線終端装置(ONU)のLAN側にHUBを接続して2セッションを組みます。



！ご使用上の注意点

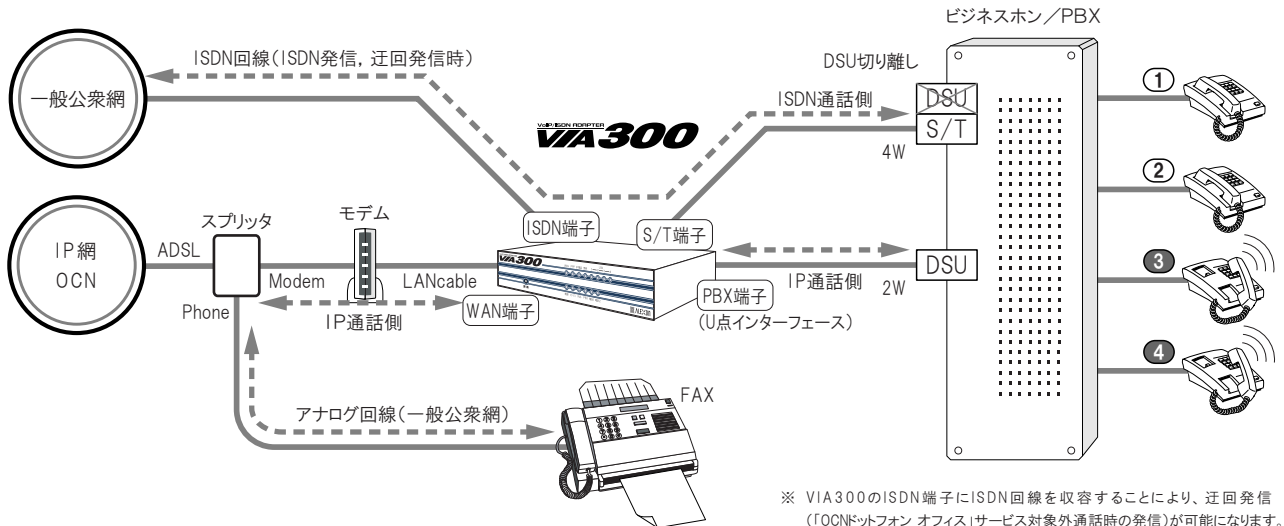
- 「OCN 光」1契約と既設のLAN(他プロバイダ1契約)の2セッション接続を行うことが可能です。既設の環境を変更せず利用可能なので、PC等の設定を変更する必要がありません。
- NTT西日本では「フレッツ・プラス」をご契約することで、セッション数の追加が可能です。詳しくはNTTまでお問い合わせください。
- HUB(10/100BASE-TX)は回線終端装置(ONU)のLANポートに接続してください。
- PPPoEセッション再取得の際、終端装置の再接続、及びVIA300のSIP再接続の為、20~30分程度IP通話できない場合があります。
- ルータのLANポートにはVIA300は接続できません。(グローバルIPアドレスにて、SIPサーバと通信を行っている為)
- データ通信によるトラフィックの増大が原因で、IP電話の通話品質が低下する場合があります。

memo

ISDN回線を2回線収容の内、子回線をアナログ(ADSL)に変更し、**VIA300**を設置する方法
その1・・・迂回発信のため、ISDN回線を収容する場合
ブロードバンド回線にADSL回線を使用

接続図(例)

ADSL(スプリッタから)のアナログ回線でFAX等がご使用になれますが、迂回用としてはご利用できません。
(別途、迂回としてISDN回線を接続する必要がありますが、下記の接続でチャンネル数は保たれます)



！ご使用上の注意点

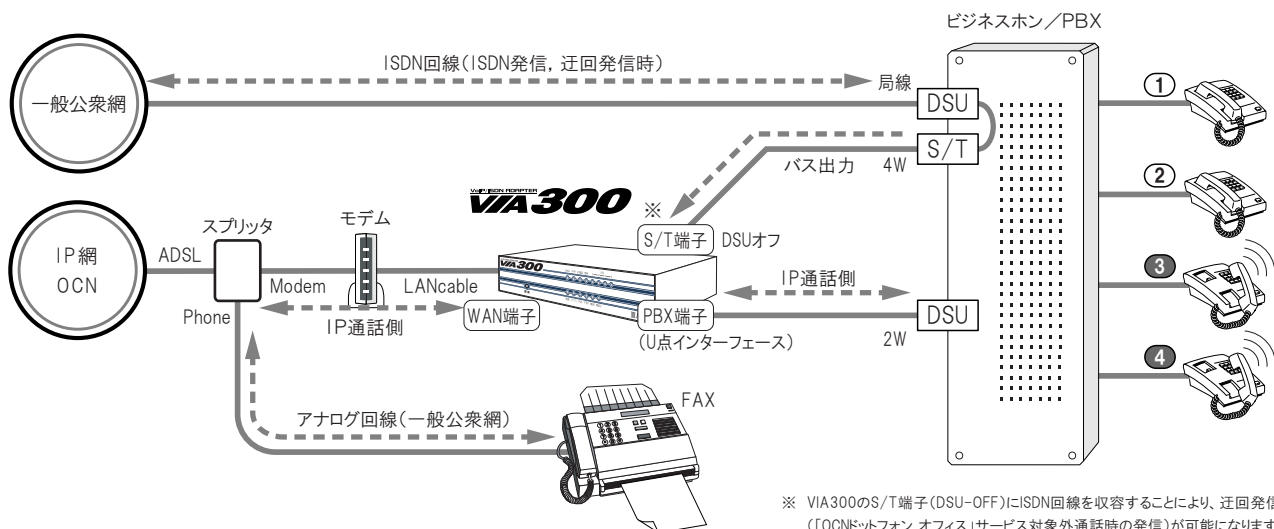
- 迂回通話を確保するため、ISDN回線をVIA300に接続してください。(アナログ回線は接続できません)
接続したISDN回線をS/T端子から、ビジネスホン/PBX(以下PBX)に接続することでISDN+IPの4通話が可能になります。
その場合、PBX端子をIP専用とし、S/T端子から一般公衆網の着信のみを行うためには、背面の「設定スイッチ」の**2番**を【ON(下側)】にしてください。PBXの設定なしに、【3】、【4】番は**IP網のみ**に着信となり、【1】、【2】番は**ISDNのみ**に着信になります。(PBXにISDN回線を接続には**PBXのDSUを切り離す**「S/Tポートに接続する」必要があります。)
- ISDN回線へ迂回発信中は【1】、【2】番から発着信出来ない場合があります。(ISDN回線では2通話まで)
発着信は合計4通話までです。各2通話以上はビジーとなります。
- スプリッタより接続されたFAX等による通信は、IP通話中でも可能です。
- ADSL(電話回線)の保安器の仕様によっては、FAX着信時にIP通話が切れる場合があります。
その場合、保安器の交換を行ってください。
- 停電時(VIA300電源OFF時)は、【ISDN端子】と【PBX端子】が直結され、一般公衆網の発着信は【3】、【4】番になります。

memo

ISDN回線を2回線収容の内、子回線をアナログ(ADSL)に変更し、**VIA300** を設置する方法
その2・・・迂回発信のため、ビジネスホンからISDN回線を収容する場合
ブロードバンド回線にADSL回線を使用

接続図(例)

ADSL(スプリッタから)のアナログ回線でFAX等がご使用になれますが、迂回用としてはご利用できません。
(別途、迂回としてISDN回線を接続する必要がありますが、下記の接続でチャンネル数は保たれます)



!ご使用上の注意点

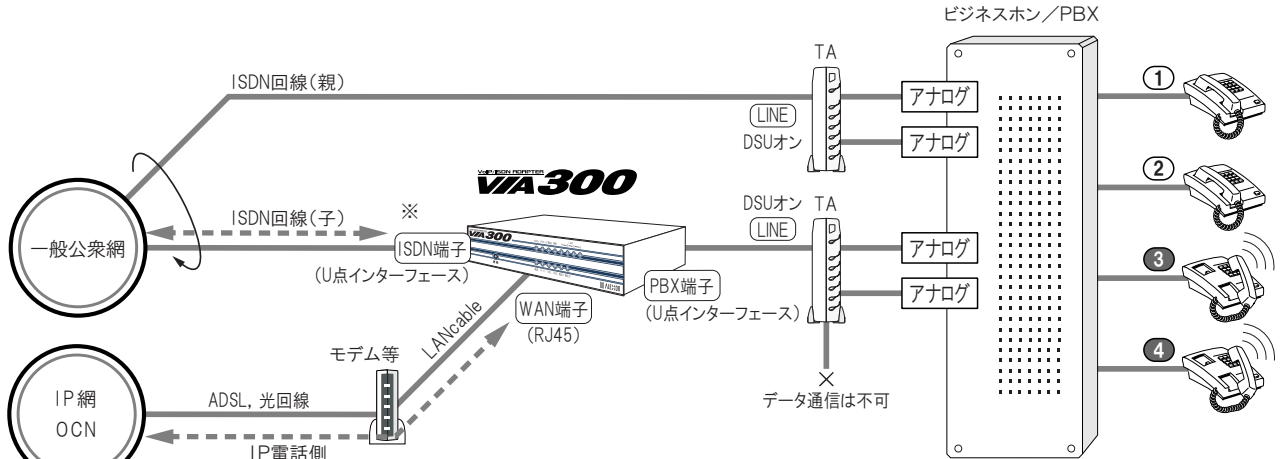
- 迂回通話を確保するため、ISDN回線をVIA300に接続してください。(アナログ回線は接続できません)
ISDN回線は、ビジネスホン/PBX(以下PBX)に収容しているユニットのS/T端子(バス出力端子)から、VIA300のS/T端子に接続し、VIA300本体のDSUを切り離す(OFFにする)ことで収容が可能になります。これにより、S/T端子から一般公衆網への発信が行えます。また、背面の「設定スイッチ」の**2番**を【ON(下側)】にすることで、PBXの設定なしに、【3】、【4】番は**IP網のみ**に着信となり、【1】、【2】番は**ISDNのみ**に着信になります。(S/T端子から一般公衆網の着信が禁止となります)
- ISDN回線へ迂回発信中は【1】、【2】番から発着信出来ない場合があります。(ISDN回線では2通話まで)同時に4ch発着信はできませんのでご注意ください。
- スプリッタより接続されたFAX等による通信は、IP通話中でも可能です。
- ADSL(電話回線)の保安器の仕様によっては、FAX着信時にIP通話が切れる場合があります。その場合、保安器の交換を行ってください。
- 停電時(VIA300電源OFF時)は、一般公衆網への発信はできません。PBXの【1】、【2】番にて発信を行って下さい。

memo

ISDN回線をターミナルアダプタ(TA)によってアナログ収容しているビジネスホン／PBXに、**VIA300**を設置する方法(ISDN回線を迂回として残し、共有する場合)
ブロードバンド回線にADSLまたは、光回線を使用

接続図(例)

VIA300のPBX端子からターミナルアダプタ(TA)のLINE端子に接続します。(DSUオン)
VIA300のISDN端子にISDN回線を収容することにより、迂回発信が可能になります。



※ VIA300のISDN端子にISDN回線(子回線)を収容することにより、迂回発信(OCNネットフォン オフィス)サービス対象外通話時の発信が可能です。

! ご使用上の注意点

- ビジネスホン／PBX(以下PBX)の設定により、【3】、【4】番からIP網(優先発信)と一般公衆網に発信できます。
- 着信はIP網と一般公衆網を併せて2通話までです。2通話以上はビジーとなります。
- アナログ(TEL)ポートが3ポートのターミナルアダプタ(以下TA)をご使用の場合、使用していないポートは着信拒否の設定にしてください。
- VIA300に接続しているTAから、ISDN回線へのデータ通信は行えません。
(VIA300に接続しているISDN回線では音声のみサポートの為)
- PBXに接続しているTAで、ISDN発信時にエコー等で音質に問題がある物はご使用に出来ません。

VIA300をご使用の際、通話品質をご確認の上設置してください。

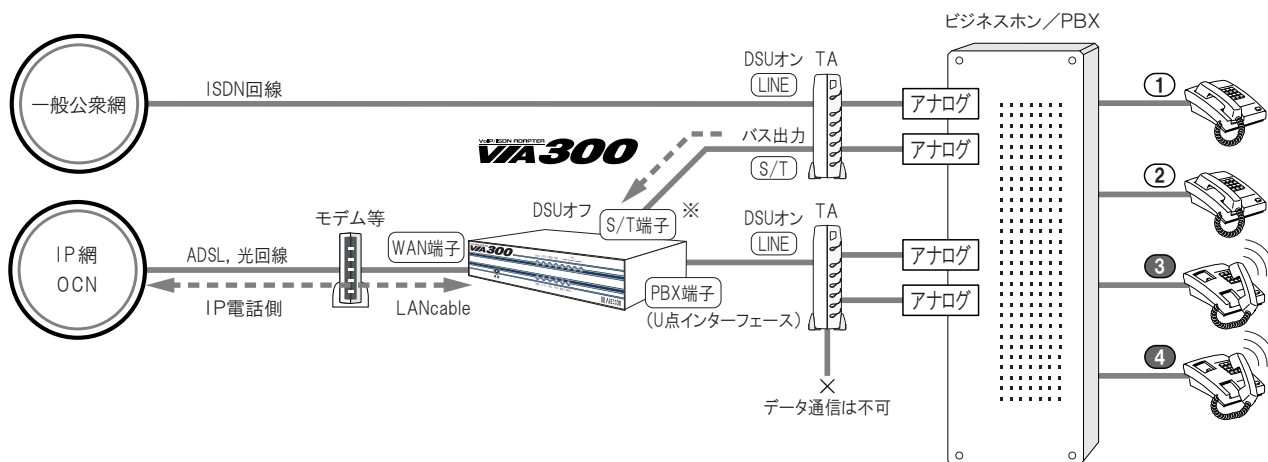
! ターミナルアダプタのご使用による音声劣化、品質低下は、弊社サポート対象外、保証外となりますのでご注意ください。



ISDN回線をターミナルアダプタ(TA)によってアナログ収容しているビジネスホン/PBXに、**VIA300**を設置する方法(ISDN回線をADSL回線に変更し、迂回を残存回線より行う場合)ブロードバンド回線にADSLまたは、光回線を使用

接続図(例)

VIA300のPBX端子からターミナルアダプタ(TA)のLINE端子に接続します。(TAはDSUオン)
VIA300のS/T端子にISDN回線を収容することにより、迂回発信が可能になります。(VIA300はDSUオフ)



※ VIA300のS/T端子(DSU-OFF)にISDN回線を収容することにより、迂回発信(OCNドットフォン オフィス)サービス対象外通話時の発信)が可能になります。

!ご使用上の注意点

- ビジネスホン/PBX(以下PBX)の設定により、【3】、【4】番からIP網(優先発信)と迂回で一般公衆網に発信できます。迂回発信時はS/T端子からISDN回線へ発信しているため、【1】、【2】番からの一般公衆網へ発信が出来ない場合があります。
- PBX端子にIP電話のみ着信させるには、背面の「設定スイッチ」の2番を【ON(下側)】(ISDN着信禁止)にしてください。
- アナログ(TEL)ポートが3ポートのターミナルアダプタ(以下TA)をご使用の場合、使用していないポートは着信拒否の設定にしてください。
- VIA300に接続しているTAから、ISDN回線へのデータ通信は行えません。(VIA300に接続しているISDN回線では音声のみサポートの為)
- PBXに接続しているTAで、ISDN発信時にエコー等で音質に問題がある物をご使用になれません。VIA300をご使用の際、通話品質をご確認の上設置してください。

!ターミナルアダプタのご使用による音声劣化、品質低下は、弊社サポート対象外、保証外となりますのでご注意ください。

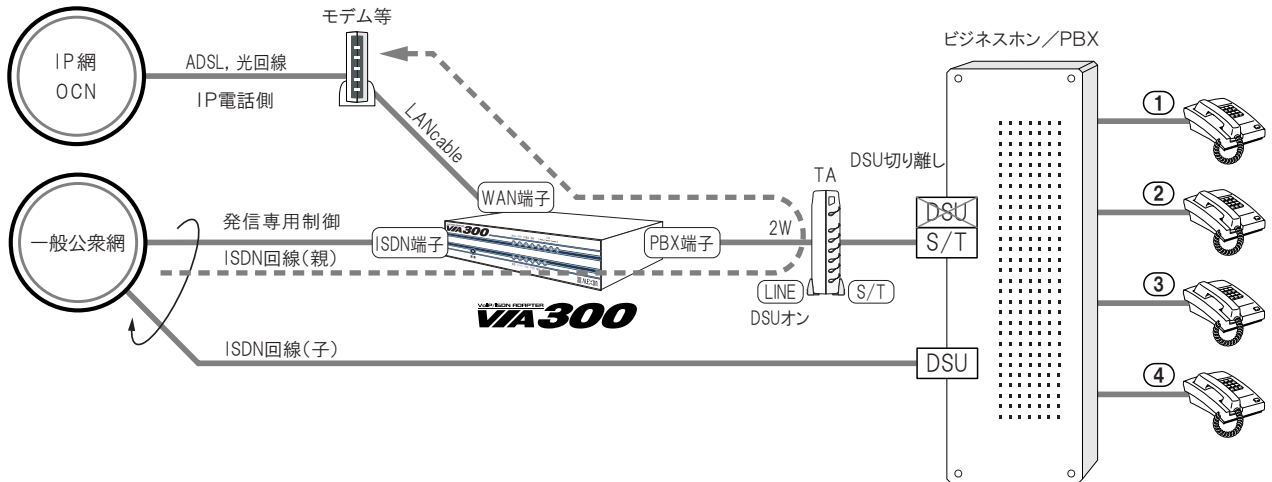
memo

転送機能のないビジネスホン／PBXで、IP通话を利用した転送機能を行う方法
(その1……ターミナルアダプタの転送機能を利用)

ブロードバンド回線にADSLまたは、光回線を使用

接続図(例)

ターミナルアダプタ(TA)を使用することにより、一般公衆網からIP網(OCN)への着信転送が可能になります。



※ VIA300のISDN端子にISDN回線を収容することにより、迂回発信
(OCNネットフォン オフィス)サービス対象外通話時の発信)が可能になります。

！ご使用上の注意点

- VIA300の【PBX端子】からターミナルアダプタ(以下TA)の【LINE端子】に接続します。(DSUオン)
TAの【S/T端子】から、ビジネスホン／PBX(以下PBX)の【S/T端子】に接続します。
- TAの設定により、[一般公衆網→IP網]、[IP網→一般公衆網]、[IP網→IP網]、[一般公衆網→一般公衆網]の各転送が可能になります。(転送機能は各TAの取扱説明書をご覧ください)
- 転送中にVIA300に着信があった場合、ビジーとなります。(転送で2通話分使用している為)
- TAの【TEL】ポートは着信拒否の設定にしてください。(TELポートは使用しない為)
- IP網への発信に問題がある場合(IP網の障害等)、一般公衆網へ迂回する転送になります。
- ISDN回線が代表組の環境下の場合、親回線にVIA300を設置してください。
VIA300の設定で【代表組を使用する/(1*41)】に変更し、NTT(116番)にてVIA300に収容しているISDN回線に対して、
【発信専用制御(P-MP回線毎)】をご契約してください。(工事費・月々の費用共無料です)

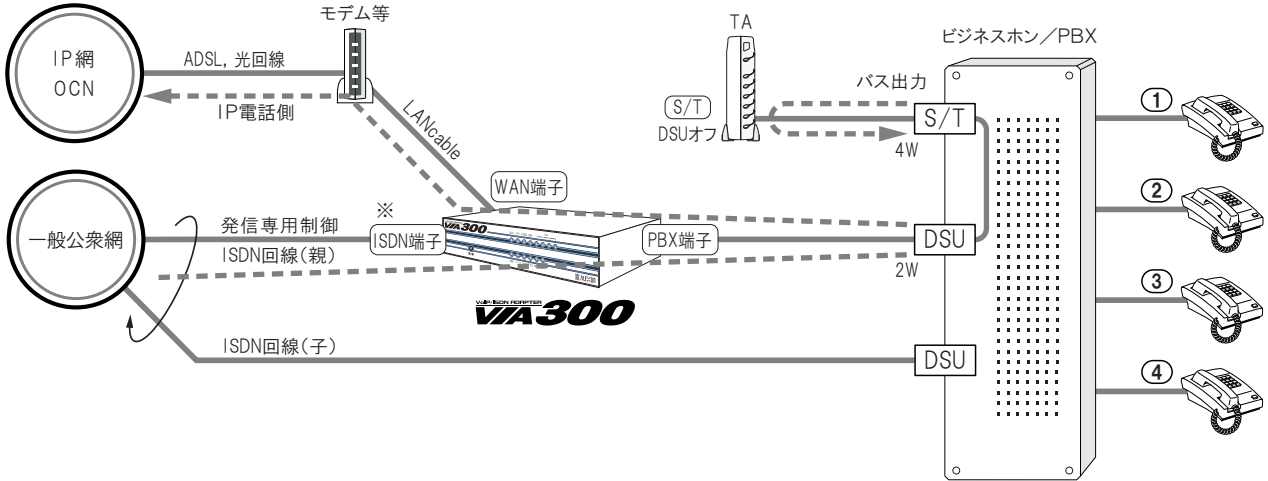


ご注意:上図は接続の参考例です。環境や接続状況によっては、ご使用になれない機器がございます。VIA300への接続については、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

転送機能のないビジネスホン／PBXで、IP電話を利用した転送機能を使う方法
(その2……ビジネスホン／PBXのS/Tポートにターミナルアダプタを接続し転送機能を利用)
ブロードバンド回線にADSLまたは、光回線を使用

接続図(例)

ビジネスホン／PBXのS/T端子(バス出力)にターミナルアダプタ(TA)を接続することにより、一般公衆網からIP電話網への着信転送が可能になります。(TAの着信転送機能を利用)



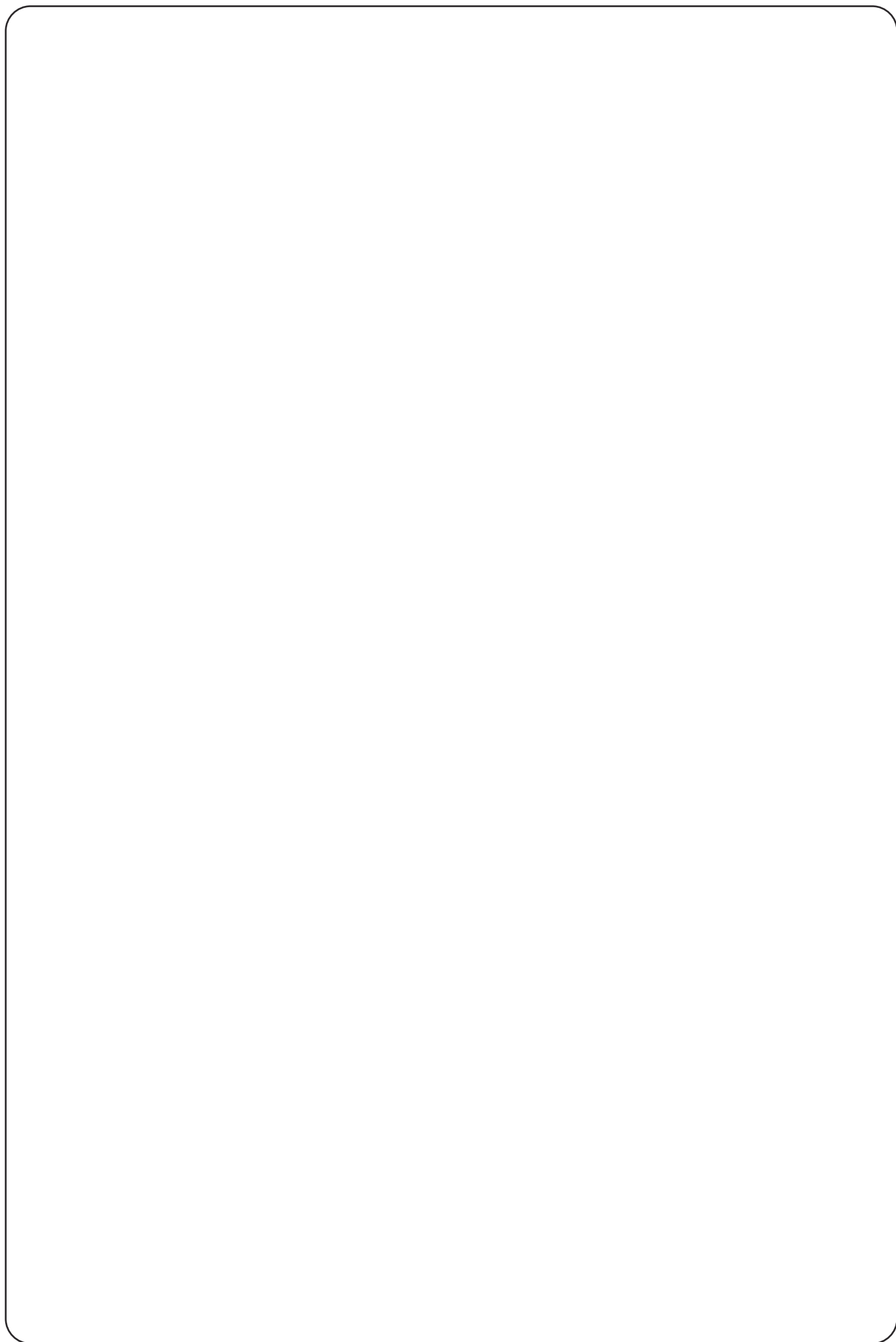
※ VIA300のISDN端子にISDN回線を収容することにより、迂回発信
(OCNネットフォン オフィス)サービス対象外通話時の発信)が可能になります。

！ご使用上の注意点

- ビジネスホン／PBX(以下PBX)の【S/T端子】(バス出力)からターミナルアダプタ(以下TA)の【S/T端子】に接続します。(TAのDSUはオフ)また、TAの【TEL】ポートは着信拒否の設定にしてください。(TELポートは使用しない為)
- TAの設定により、[一般公衆網→IP網]、[IP網→一般公衆網]、[IP網→IP網]、[一般公衆網→一般公衆網]の各転送が可能になります。(転送機能は各TAの取扱説明書をご覧ください)
- 転送中にVIA300に着信があった場合、ビジーとなります。(転送で2通話分使用している為)
- IP網への発信に問題がある場合(IP網の障害等)、一般公衆網へ迂回する転送になります。
- ISDN回線が代表組の環境下の場合、親回線にVIA300を設置してください。
VIA300の設定で【代表組を使用する/(1*41)】に変更し、NTT(116番)にてVIA300に収容しているISDN回線に対して、
【発信専用制御(P-MP回線毎)】をご契約してください。(工事費・月々の費用共無料です)

memo







<http://www.alexon.co.jp>

製品に対するお問い合わせ

アレクソン サポートセンター

TEL:072-780-1101

受付時間:9:20~12:00, 13:00~17:00(月~金)
(祝祭日, 年末年始, 弊社休日を除く)

本社営業部

〒664-0026 兵庫県伊丹市寺本3-207-1
TEL 072-777-1584 FAX 072-780-2060

東京営業部

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-25-13
リムレイ日本橋ビル5F
TEL 03-3667-2276 FAX 03-3667-5329